

## 参考図書紹介

### 養蜂の科学絵本

松香光夫：ミツバチ利用の昔と今。

農山漁村文化協会。32 pp. 1998. 2,000 円 (税別)。  
ISBN4-540-97123-9

この本は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の自然の中の人間シリーズ『昆虫と人間編』(全 10 巻)の中の第 3 巻として発行されたものである。

紀元前 6000 年頃描かれたと思われているスペインのハニーハンティングの壁画で始まるミツバチの創世期の項には、ヨーロッパ、アフリカの国々で古い時代からミツバチが利用されていたこと、その原始養蜂時代から、19 世紀になって、可動巣枠、巣礎、遠心分離器の三大発明によって、近代養蜂の進出へと発展したことがまず紹介されている。

日本の養蜂の歴史、特に江戸時代までのニホンミツバチによる養蜂、そして明治にセイヨウミツバチが輸入され、移動養蜂(転地養蜂)の発達した経過が述べられ、さらにアジアはミツバチの宝庫で開放空間に 1 枚の巣をつくるものと閉鎖空間に複数の巣板を造る 2 つのタイプがあり、最近発見された新種を含めて 9 種が共生していることが、その分布図と鮮明な写真で紹介されている。

後半には、セイヨウミツバチを例にとってミツバチの社会生活、ミツバチの生産物につい

て、ミツバチと花そして人間の関係、ミツバチの害敵と網羅され、最後にミツバチと環境について、聖書には「乳とミツの流れる地」が理想郷と書かれているように、この理想郷こそ、現在の地球上でわれわれ人間が常に考え続けなければならないことだと結んである。

それぞれのページに、鮮明な写真、わかりやすいイラストがオールカラーでふんだんに使われ、小学生にも読めるように漢字にはルビがふられている。子供から大人まで、楽しくミツバチ利用の昔と今が学べる好书である。

なお、自然の中の人間シリーズ「昆虫と人間編」は、本書の他、「昆虫たちの超能力」「暮らしの中の昆虫たち」、「カイコで作る新産業」、「虫で虫を退治する」、「昆虫のにおいの信号」、「昆虫が身を守るふしぎな力」、「昆虫のバイオテクノロジー」、「昆虫ロボットの夢」、「都市の昆虫・田畑の昆虫」の 9 巻からなる意欲的な構成で昆虫と人間の関わりを伝えている。さらに自然の中の人間シリーズには、「微生物と人間編」、「土と人間編」、「森と人間編」、「川と人間編」、「海と人間編」があり、いずれも学校図書館などでの利用に向けた大判の科学絵本シリーズで、人と自然の関わりをわかりやすく解説している。

(酒井 哲夫)

## お知らせ

### 電話番号(市外・市内局番)の変更のお知らせ

町田市、相模原市の市外・市内局番の変更に伴い、玉川大学ミツバチ科学研究施設の電話番号・FAX 番号が次のようになりました。

042-739-8685 (FAX とも)

市外からおかけの場合にはまったく変更はありません。

ミツバチ科学研究施設、アジア養蜂研究協会とともに同じ電話番号です。おかけの際はお間違えのないようお願いいたします。